



MINATO

みなとユネスコ 会報

Bulletin

MINATO UNESCO ASSOCIATION NEWS & CALENDAR

ISSUED BY / MINATO UNESCO ASSN. 16-3, SHIMBASHI 3-CHOME MINATO-KU TOKYO 105-0004 / HIROSHI NAGANO PRES.
発行所 / 港ユネスコ協会 〒105-0004 東京都港区新橋3-16-3 Tel : 03-3434-2300 Fax : 03-3434-2233 発行人 / 永野博
Mail : info@minatounesco.jp https://minato-unesco.jp

2021年9月1日発行 第165号

目次

P. 1 巻頭言	P. 8-10 港区の森から海へ、そして世界へ
P. 2-4 レコンキスタ時代の歴史と世界遺産	P. 11 明治学院大の学生来訪
P. 5 ゆかた着付け教室	P. 14 事務局便り
P. 6-7 鉄のおはなし	

新型コロナ感染症を克服して向かう先は？

港ユネスコ協会 会長 永野 博



皆さま、新型コロナ感染症がデルタ株に変化する中、ご無事で過ごされていることを祈念しております。私自身もこれほど感染が長引き、東京五輪が無観客で行わざるをえなくなるとは思っていませんでした。しかし歴史をみれば、中世に流行したペストは言わずもがなですが、100年前のスペイン風邪を学べば、1年で収束するはずがないわけで、私には歴史に学ぶ姿勢がなかったと言わざるを得ません。ただ、科学技術の進歩により1年もたたないうちにワクチンができたことは素晴らしいことです。もっとも日本がワクチンの開発にも、ワクチンの接種にも出遅れたということは、世界における日本の科学技術力が相対的に低下していることを目の当たりにさせました。日本の資産といえば頭脳しかないにもかかわらず、政府が有効な科学技術への投資を行えないことは日本の将来に暗い影を投げかけています。

新型コロナ感染症は地域ユネスコ活動に大きな影響を与えています。港ユネスコ協会でも昨年度は多くの行事が中止に追い込まれました。しかし、年度途中より Zoom などの新しい情報技術を利用しようという試みに取り組み始めました。技術の習得が難しく、いまだ学習中ですが、昨年開催しました国連海洋科学の10年のスタートをテーマとしたシンポジウムには、北は北海道から南は九州まで、多くの方が参加されました。これまで港ユネスコ協会の活動への参加は近隣の方々だけでしたので、これはコロナ感染症がもたらした画期的な、港ユネスコ協会の活動に変革をもたらす出来事でした。

新型コロナ感染症の収束後はどのような社会になるのでしょうか。明らかに元通りには戻りません。単に情報技術の利用が拡大するというだけでなく、私たちの考え方、例えば、勤務先に本当に毎日通勤すべきなのか、どこに住んだらいいのか、誰のために働くのか、そもそも人間にとって何が幸せなのか、というような課題が問い直されてくるでしょう。これに加えて気候変動による地球温暖化などの大きな社会的課題の現実化ともあいまって私たちの価値観が大きく変革する可能性があります。平和の理念の実現に向け多様に活動する地域ユネスコ協会もこれまで以上に、どこに軸足を置き、何に挑戦していくべきかを自ら考えることが求められてきます。港ユネスコ協会としても、しっかり考え、変革する社会にとって意味のある活動をする存在となる努力を重ねていきたいと考えております。

「スペイン王国レコンキスタ時代の歴史と世界遺産」

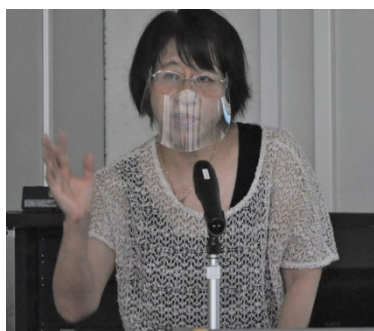
友野智子氏 世界遺産アカデミー認定講師

日時：2021年7月10日 18:00～20:00

会場：港区立生涯学習センター3階305号室

主催：港ユネスコ協会 共催：港区教育委員会

後援：世界遺産アカデミー



レコンキスタとは、カトリック教徒の国土回復運動。イベリア半島をイスラム教徒から奪い戻すこと。スペイン国旗は「血と金の旗」と言われ、黄は豊かな国土、赤は外敵を撃退した時に流れた血の象徴、中の紋章はイベリア半島の初期の5つの国（カスティーリャ、レオン、アラゴン、ナバラ、グラナダ）のもの。

スペインは世界で3番目に世界遺産の多い国で48を保有、そのうち19がこのレコンキスタの時代に関わるもの。

1 プレレコンキスタ

レコンキスタ以前のイベリア半島はローマ帝国の一部でしたが、ゲルマン族の移動が始まり最初に入ったヴァンダル族は今でもアンダルシアとして名を残しています。次に西ゴート族がピレネー山脈を越え侵入し508年にトレドに都を移します。西ゴート族は6世紀末にカトリックに改宗しました。

622年にムハンマドがイスラム教を開始、後継者カリフの一族ウマイヤ朝が世襲王朝となって領土を拡大、イベリア半島に進出してきました。カトリック教徒は北へ逃げ、西ゴート王国は711年に滅亡します。

2 ウマイヤ朝、後ウマイヤ朝との対決

ウマイヤ朝勢力に押されながらも、アストゥリアス王国は首都オビエドに建国し、722年コバドンガの戦いで勝利します（レコンキスタの開始）。750年ウマイヤ朝が滅び、アラビア半島から逃げてきたアブド・アッラフマーン1世がコルドバを首都とし756年に後ウマイヤ朝を建国、ピレネー山脈を挟んでフランク王国と対峙します。フランク王国はスペイン辺境伯を置きイスラム勢力のピレネー越えを阻もうとしました。このスペイン辺境伯とアストゥリアス王国がレコンキスタの推進者となります。

アストゥリアス王国から独立したレオン王国、レオン王国から独立したカスティーリャ伯領、スペイン辺境伯から独立したナバラ王国の連合軍が939年シマンカスの戦いでイスラム勢力を破りますが、直ぐに巻き返されます。後ウマイヤ朝はアブン・アッラフマーン3世下で最盛期を迎え首都コルドバは繁栄します。10世紀の終わり頃、後ウマイヤ朝のアル・マンスールがキリスト教国の拠点に遠征・略奪を繰り返し、レオン、ナバラ、カスティーリャはぼろぼろになります。またこの頃サンティアゴ・デ・コンポステーラもイスラム勢力によって破壊されました。

（この時代に関係する世界遺産）

・アストゥリアス王国とオビエドの宗教建築群（プレロマネスク様式）・エルチェの椰子園（灌漑技術が優れ大量の椰子が植樹された）・メディナ・アサーラのカリフ都市（アッラフマーン3世の離宮）

3 タイファ諸国、ムラービト朝との対決

1031年後ウマイヤ朝滅亡、イスラム小王国のタイファ諸国に分立します。キリスト教側はナバラ王国の相続分割でナバラ王国、カスティーリャ王国、アラゴン王国となります。レオン王国を併合したカスティーリャが1085年トレドを奪還します。ここはレコンキスタ終了まではユダヤ教徒、イスラム教徒、キリスト教徒が共存、カスティーリャ王国の首都として栄えます（1561年フェリペ2世が首都をマドリッドに移します）。

イスラム側はモロッコのムラービト朝がイベリア半島に上陸しアンダルシアを支配します。キリスト側ではアラゴン王国が1118年サラゴサを征服し支配を拡大させますが、カスティーリャ王国と対立します。1147年ムラービト朝はムワッヒド朝によって滅亡させられます。

(この時代に関する世界遺産)

・サンティアゴ・デ・コンポステーラ(聖ヤコブの墓がもと。1128年ロマネスク様式で再建)・サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路:カミノ・フランセスとスペイン北部の道(オビエド→パンプローナ→ブルゴス)・歴史都市トレド(大聖堂はゴシック。エルグレコの絵)・アビラの旧市街と城壁外の教会群(イスラム教徒の再侵入を恐れ街を要塞化)

4 ムワッヒド朝との対決

ムワッヒド朝の治下アンダルシアが繁栄。古代ギリシャ文化は、副都のセビーリャから(イスラムを通じて)ヨーロッパに伝えられ、法官イブン・ルシュドのアリストテレス研究は中世ヨーロッパのスコラ哲学に大きな影響を与えました。

キリスト教の国の分裂もあり、スペインにおけるイスラム勢力とキリスト勢力がほぼ五角の状態が続いていましたが、ローマに教皇インノケンティウス3世が現れ、第4回十字軍派遣などイスラムとの対決を鮮明にすると、イベリア半島でもキリスト教連合軍が結成され、1212年ラス・ナバス・デ・トロサの戦いで勝利します(大レコンキスタ時代の幕開け)。

レオンを統合したカスティーリャが1236年コルドバを占領、1248年セビーリャを開城、1251年にはジブラルタル海峡に達します。アラゴンは1238年バレンシアを制圧しています。

一方、イスラム側はムワッヒド朝が1276年に滅亡。グラナダではナスル朝が支配を拡大します。

(この時代に関する世界遺産)

・要塞都市クエンカ(スペイン初のゴシック建築)・サラマンカの旧市街(コロンブスも学んだサラマンカ大学。「知識を欲する者はサラマンカへ行け」)・ブルゴスの大聖堂(スペイン・ゴシックの頂点)・コルドバの歴史地区(メスキータ。円柱の森)・セビーリャの大聖堂(各様式が混在。コロンブスの墓がある)とアルカサル(ムデハル様式)

⑫サラマンカの旧市街



街の象徴
「知識を欲するものはサラマンカへ行け」
いづれも世界遺産オンラインガイドより
©2021 友野智子

⑬ブルゴスの大聖堂



起工は1221年→1293年完成
200年中断→15C半ば再開→1567年完成
世界遺産オンラインガイドより
©2021 友野智子

5 大レコンキスタ後のカスティーリャ、アラゴン、グラナダ

カスティーリャは大レコンキスタを行ったフェルナンド3世以降、内乱やペスト流行による人口減少を経つつも1410年王弟フェルナンドがグラナダ王国の拠点アンテケラを陥落させます。

アラゴンは大レコンキスタを行ったハイメ1世以降、王権を強化し地中海へ進出。1443年アルフォンソ5世がイタリアのナポリ王国を征服します。

一方、イスラムのナスル朝グラナダ王国は、キリスト教勢力の分裂等もあり、巧みな外交を展開しながら、交易などで繁栄し、存続します。

(この時代に関する世界遺産)

・サンタ・マリア・デ・グアダルーペ王立修道院(お告げにより川辺から掘り出された黒い木彫りの聖母像)・トラムンタナ山脈の文化的景観(アラブ人が構築した水利灌漑システム)・アラゴンのムデハル様式建築(イスラム+キリスト)

6 レコンキスタの完了

1469年カスティーリャ王女イザベルとアラゴン王子フェルナンドが結婚。やがて二人はそれぞれの王位に就き、スペイン王国が誕生しました。1492年グラナダのムハンマド12世が降伏し、アルハンブラ宮殿無血開城により、レコンキスタは完了し、スペインは大航海時代に入っていきます。グラナダを落とし、イベリア半島からイスラム勢力を一掃しなければならなかった背景として、1453年にオスマン帝国が東ローマ帝国を滅ぼし、コンスタンティノープルを首都とし、大きな脅威となってきたことがあります。

6. レコンキスタの完了

1469年カスティーリャ王女イザベルとアラゴン王子フェルナンドが結婚
1474年イザベル1世即位、夫と共同統治
1479年フェルナンド2世がアラゴン王として即位
→スペイン王国成立



カトリック両王
フェルナンド2世とイザベル1世の結婚式の肖像画 ©Public
sekainorekisi.comより ©2021友野智子



「王家の歴史」より

5つの王国

ナバラ王国

アラゴン王国

カスティーリャ王国

ポルトガル王国

グラナダ王国

67

(この時代に関する世界遺産)

・アルハンブラ宮殿 (170年かけたイスラム建築の最高傑作。この宮殿を見て感激し世界遺産に興味を持つことになりました。)

①9グラナダのアルハンブラ宮殿、ヘネラリーフェ離宮、アルバイシン地区



アルハンブラ=赤い城

世界遺産オンラインガイドより

©2021友野智子



1232年ナスル族のイブン・アル・アフマルがグラナダ王国を興す

1238年アルハンブラ宮殿建築開始
約170年をかけたイスラム建築の最高傑作

71

(国際学術文化委員会 山田祐子)

日本の伝統文化「ゆかた着付け」実演と体験

講師 高橋優子（ハクビ京都きもの学院 銀座校 院長兼校長）

日時：2021年6月27日（日）13:00～15:30

会場：港区立生涯学習センター303号室

内容

1. ゆかたの歴史について説明
2. 講師によるデモンストレーション
3. ゆかたの着付け練習を2回行う
4. ゆかたを着て、座礼、立礼、美しい歩き方の練習
5. ゆかたのたたみ方を練習

参加者の感想

- ☆コロナ禍でも、家で着てみたいと思います。
- ☆簡単ではありませんでしたが、楽しかったです。
- ☆この企画をしてくださってありがとうございました。
- ☆丁寧に教えていただきありがとうございました。
- ☆85歳になって滅多に着ないのですが、やっぱり少し着ようかなという気になりました。
- ☆見様見真似の自己流で着ていたのですが参加して良かったです。
- ☆ちょっとしたコツを忘れないよう、自分でも着れるようにしたいと思います。



ひとこと

昨年は、コロナ感染の為ゆかた着付け教室の企画を中止しましたが、今年度は万全の注意を払いながら実施しました。

85歳のご婦人や外国人5名の参加もあり、何事もなく無事に終了することができました事を嬉しく思います。

今回は、ゆかたを着て美しく歩く、立礼・座礼などの練習を取り入れての内容でした。

ハクビ京都きもの学院高橋優子校長先生や、アシスタントの先生の丁寧なご指導は、参加者の皆様に大変好評でした。



(文化体験教室委員会 副会長 平方一代)

世界を見よう！みなと UNESCO サロン

“鉄”のおはなし

～ 宇宙、文明と製鉄、そして環境 ～

講師：砂原公平氏 [日本製鉄株式会社 技術開発本部
プロセス研究所 試験高炉プロジェクト
推進部 試験室長、博士 (環境科学)]

日時：2021年5月21日 (金) 18:30～19:50

会場：港区立生涯学習センター305室

新シリーズとして「世界を見よう！みなと UNESCO サロン」と題して現場の第一線の方のお話しをお聞きする講演会をスタートします。第1回は製造業の要の「鉄」をテーマとして砂原公平さんをお迎えしました。(永野会長の開会の挨拶により開演。)



<本日のテーマ>

- ★「地球がなぜ“鉄”の惑星なのか？」138億年前のビッグバン以降の元素生成で特異的に多い「鉄」、そして45億年前に生まれた地球の約3割が「鉄」。
- ★4千年前のヒッタイト人の鉄器使用で「文明と鉄の歴史」が始まった。
14世紀からの英仏百年戦争での「武器・戦艦」の為に大量の木炭を燃やすという森林破壊が起き「地球環境問題」が起こった。 ★産業革命時に「石炭」の発見。
- ★「鉄と森と火の関係」、人類がいかにか工夫をし「鉄」を「文明」へと結びつけていったか。
- ★今日の「製鉄」と「環境への取り組み」。 国を上げて同業全社での取り組み。

1. なぜ、地球が“鉄の惑星なのか？”

少年時代は宇宙を夢見、その後は物理学を専攻した氏は、近年証明された幾つかの「発見」に心を弾ませながら・・・



全部の星が地球から遠ざかっている・・・

宇宙の膨張 (1929年アメリカのハッブルが発見・ドップラー効果)、10次元宇宙が「3次元の膨張と7次元の収縮」と分かれたという多次元インフレーション理論は「ヒッグス理論」の枠組みをモデルにしていたことは30年前に説かれていたが、理論だけでなく2012年のヒッグス粒子の発見で証明され、2013年にヒッグス氏はノーベル賞受賞されたのです・・・

と宇宙論からお話しは始まりました。

138億年前： 宇宙の始まりはクオークのスープ (素粒子のぎゅうぎゅう詰め状態)

→ 約3分後に陽子、中性子、その後、水素、ヘリウムの生成

→ 鉄まで核融合 (星の生成)、鉄以上の元素は超新星爆発で生成

鉄、コバルト、ニッケル付近が宇宙で最も安定な元素

46億年前： 太陽系ができ、地球の生成 (35%は鉄) 44億年前： 海の生成 (高圧・高温 200℃)

40～38億年前： 生命の誕生 (まだ酸素なし)

30～27億年： 磁場の生成 (宇宙放射線のバリアにより生命の繁栄) 酸素発生、地表に酸化鉄

20～19億年前： 複雑な生物の誕生・酸素の大量供給 (1%)

13億年前： 2つのブラックホールが衝突・・・2015年9月に重力波を受信

7.2～6.3億年前： スノーボールアース※ 酸素濃度ほぼ現状並み (20%)

オゾン層形成により生命の繁栄

5億年前： 生命の繁栄 (種類の増加)・カンブリア爆発 (現在の化石燃料)

4億年前～6500万年間の間に数回の生命の80～90%の絶滅の時期

2. 鉄と森と火：人類の文明の歴史 人類が石から金属を手にした文明とは？

3390 万年前： 南極大陸の孤立。有胎盤類から類人猿（アフリカ）

300 万年前： アウストラロピテクス（猿人）・・・脳 450cc

260 万年前： ホモ属の石器使用 150 万年前： ホモエレクトス・脳 1580cc イルカを抜く

50 万年前： 北京原人ジャワ原人・・・石器・火の利用 2 万年前まで 5 回の氷河期

2.8 万年前： ネアンデルタール人・脳 1550cc 石器文化。クロマニヨン人・高度な文化、武器

1.3 万年前： 最後の氷河期終わる・・・日本では縄文時代へ

6000 年前： 青銅器時代・・・銅は 1084℃で溶ける・・・融点が低く「銅」の利用が盛んとなる。

1 トンの「銅」を作るのに約 100 トンの「木炭（2 千本以上の松の木）」が必要

膨大な森林を必要とする「銅」の衰退。

（環境問題 ①）

4000 年前： ヒッタイト人の鉄器・・・「銅」の精錬時の不純物の中に「鉄」を発見。

1 トンの「鉄」を作るのに 10 トン以下の「木炭」で十分。 **（環境問題 ① 解決）**

6C ごろ： 日本に「製鉄」が伝わった（縄文時代が長く世界の中で遅いスタート）。

でも鉄の原料の鉄鉱石・砂鉄・炭（森）は、国内のどこにでもあったことで農耕・畜産と同様に「製鉄」も地域ごとにその地の原料で製鉄されるという地産地消だった。弥生時代から伝わる各地の農耕具を調べてみるとそれぞれの形態、配合に個性が見られることで分かる。日本の鉄はスタートが遅くても良質の理由の一つに「持続可能なふんだんな森」があつての「不純物のない良質な鉄」ができたことがある。西洋の森は 100 年も掛けて森が育成される。それに比して日本の森は雨量の多さにより 30 年で森が再生される。日本の古代から近世にかけての「たたら製鉄」もその中で育まれた。

○ 日本の刃物 世界で一番よく切れる

○ 日本の包丁の種類は世界一 肉・魚・野菜とそれぞれに対応した工夫がある。

○ 錆びない和釘・・・法隆寺

14C～16C： 英仏百年戦争で武器、戦艦の製造の為の「鉄」で大量の「木炭」を使用。森林破壊を招いた・・・

（地球）環境問題 ②

17C～19C： 産業革命の時は「ブラックダイヤモンド（石炭）」を発見したことにより化石燃料の利用で森林を破壊せずにして「緑」は戻った **（環境問題 ② 解決）**

今日の「製鉄」 日本の森は豊かで「たたら」の様な技術で「日本刀」などの高品質で少量の製品は作られていたが、今日の大量生産に対応するには石炭、鉄鉱石の輸入に頼っている。ブラジル・オーストラリアなどから「鉄鉱石」を輸入し、コークス（石炭から精製）と石灰石で高さ 100m くらいの「溶鉱炉」で製鉄。炉の中では 1200 度で鉄鉱石が溶け、1500 度の「鉄」ができあがる。 1 トンの「鉄」を作るのに約 0.5 トンの「石炭」

3. 環境への責任と新たな火とは？「第 4 の革命」

1960 年代： 石炭石油（化石燃料）の使い過ぎでの CO₂ 問題（地球温暖化） **新たな環境問題 ③**

「原子力発電による解決」の策は 2011 年以降再考の段階。

日本の CO₂ 直接排出量は「12 億 2700 万トン」その構成比は、エネルギー転換部門 39%、産業部門 28%、運輸部門 17%・・・その中で鉄鋼業は産業部門のうち約半分を占める。国家プロジェクトとしてオールジャパンで「いかにして CO₂ を減らすか」が課題。

（環境問題 ③ その解決方法は？）

大量生産による資源枯渇、化石燃料による「地球環境問題（CO₂）」の中、新たなエネルギーとして「水素」が今日取り上げられて、トヨタ自動車の「ミライ」で見られるように世界中で「水素」の強奪戦が始まっている。

「第 4 の革命」 農業革命、産業革命、そして情報革命、それに続く「脱炭素革命」を第 4 の革命と最近言われている。

(P. 10 へ続く)

世界を見よう！ みなと UNESCO サロン for SDGs

自然との共生

港区の森から海へ、そして世界へ

～ 「国連海洋科学の10年」が2021年から始まりました ～

講師：佐々木 剛氏

[東京海洋大学海洋政策文化学部門教授
水圏環境教育、水産教育。森川海とその
つながりを基調とした地域づくり教育の
実践研究と普及。著書「日本の海洋資源
(祥伝社)」他

日時：2021年7月1日(木) 18:00～19:50

会場：港区立生涯学習センター305室



「世界を見よう！みなと UNESCO サロン」シリーズ、今回から「for SDGs」を副題に添えて世界に繋がる「海」をテーマとしました。まずは、永野 博会長より佐々木先生をご紹介。

港ユネスコ協会として、佐々木先生のご指導で東京海洋大学の学生さんと近隣の小中学生とで「海」を介しての交流を進めている中、「芝浦」を基点とした東京湾クルージングはこの数年、回を追う度に人気です。又、先生は今年から始まる国連イベントのパネリストでもご活躍です。

<本日のテーマ>

- ★ 森と海をつなぐを「歴史」時間的、「地形」空間的アプローチで読み解く
- ★ 活動の紹介 ○水圏環境教育学実習 ○芝浦周辺の水辺生物 ○現在の水質環境
○今私たちができることは？ ○「森・川・海」の取り組み紹介
- ★ 港区の森から海へ そして“世界”へ

先生の自己紹介・・・

2006年迄、岩手県の水産高校で環境教育、牡蠣・帆立の養殖の指導。その中で実物を通して学びを進めて行くフィールドワークの重要性を認識。まさに海洋学者の名言「Study nature, not books (ルイ・アガシー)」を実感した日々でした。この理念をより多くの「先生方」に実践して貰うために「地域の環境を生かした教育」が大事と思い、2006年からは東京海洋大学へ行き、中学・高校生を対象に「野外学習のすすめ方」というスキルを身につけて貰う「教員養成課程」のカリキュラムを受け持っています。教えるというよりは一緒に学んでいます。

2010年からは港区の港南中学の生徒さん達と水質の調査・改善、そして高輪台高校、商業高校の生徒さん達とフィールドワークを進めています。



エスニック・バウンダリー論の紹介 文化人類学者 F. バルトの考え

「民族集団はそれぞれの言語や文化習慣といった内側の要素から定義されるのではなく『境界(バウンダリー)』を接している他民族との関係によって定義される。」境界を設けることで初めて研究の対象となる、そして理解が深まるという考え方を「森・川・海」に当てはめていきます。

活動の紹介 「クルーズ船で東京探訪！！東京の森・川・海を知る」

今年の1/31に港ユネスコ協会主催で佐々木先生の下で開催した記録ビデオを上映しながら「取り組み」の一つを紹介。港ユネスコ協会のホームページ内で下記URLとリンクしています。

[港区の生涯学習講座で動画配信されました クルーズ船で東京探訪！！「東京の森川海を知る」 - 港ユネスコ協会 \(minato-unesco.jp\)](http://minato-unesco.jp)

森と海のつながりを読み解く 日本は森に囲まれている、森林を大事にしている・・・



港区には森も海もある・・・フィールドワークでより具体的に

- 陸域（生活、仕事など）と水域（河川、浜辺、海洋、住む生物）に境界を引き
- それぞれの視点から観察しどのようなつながりがみえるのか、時間的・空間的に検討。
- その2つの陸域と水域との関わりの変遷を知り、都市と水辺、海洋のあり方を考察。

さあ、私たちの水辺を見ていきましょう！！

古代からの森・川・海、人の生活があり」、「舟運」によるつながりが見えてきます。

- 隅田川、神田川、古川・・・人工の玉川上水
- 新宿御苑、明治神宮、江戸城
- 竹芝・・・舟運の基点
- 遠浅の砂浜、江戸前の水産物、後に日本で初の療養の為の海水浴場
- 武蔵野台地、国分寺崖線、

★ 「江戸」の名前の成り立ちは「江」・・・大きな川、「戸」・・・出入り口には商船学校の礎の地でもあり水辺があつての街がつくられてきました。

★ 4年前に「海」を身近なものにしようという考えでJR東日本さんが「水辺」の構想を抱き2020年に浜離宮の隣に「竹芝ウォーターズ」を完成させました。環境保全を目的とした干潟を再現したり、東京湾を再生する拠点として位置づけています。

★ 竹芝に注ぐ古川の源流はどこ？・・・「新宿御苑」です。麻布十番、有栖川宮公園、白金台、恵比寿、渋谷、原宿、南青山、明治神宮、新宿御苑と全てが「古川」の流域なんです。ベネチア、アムステルダム、蘇州、バンコクなど平坦な水網都市であるのに対して東京は武蔵野台地に広がる凸凹地形を巧みに読み込み、人間の手も大いに加えて創り上げられた世界にも類例のないダイナミックな三次元的「水の都市」といえる所以です。

私たちにできることは・・・「江戸前を復活させる」ために家庭でできる7つの行動

- ◇**台所では** 1. ごはんを残さず食べます！感謝の気持ちを忘れません。2. 食器の汚れは拭き取ってから洗います。有機的（窒素、リンなどのもと）を75%カットできます。3. 三角コーナーでは水切り袋を使います。ゴミ45%をカット。4. 油を流しません。
- ◇**洗濯では** 5. 海で分解しやすく臭いの少ない「石けん洗剤」を使います。6. 風呂の残り湯を洗濯物に使います。

◇風呂では 7. 石鹼や植物由来のシャンプーを使います。クエン酸由来などの海に優しいリンスを使います。

◇その他、「鉄炭団子による浄化活動」・・使い捨てカイロ回収活動をしています。

「国連海洋科学の10年」が2021年から始まりました

「国連オーシャン ディケード ラボ」の URL をご参照ください。

<http://www2.kaiyodai.ac.jp/~t-sasaki/Takeshiba/>

国連の催しとしてドイツ政府が主催して世界中の研究室が繋がってのイベントです。

アジアを代表して佐々木先生の研究室が選ばれ、10年間のわたり活動をさせていただきます

まとめ 私たちの身近な海。水蒸気となって雨を降らし、東京の森を育て、川となって海に注ぐ・・・ここには古代から営々と育まれてきた「大自然」があります。

佐々木剛先生の「東京の森・川・海を知る」シリーズを今回は地上の講義で伺いました。併せて2021年から始まった「国連海洋科学の10年」での活動の一端に私ども協会も参画できたこと、今後は広く深く応援していこうと思う一日でした。

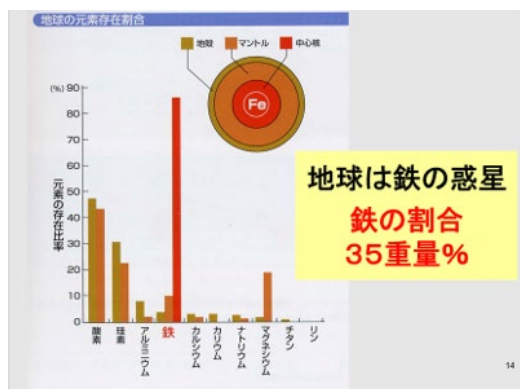
(会員開発委員会担当 常任理事 小林敬幸)

(P.7からの続き) 鉄の話

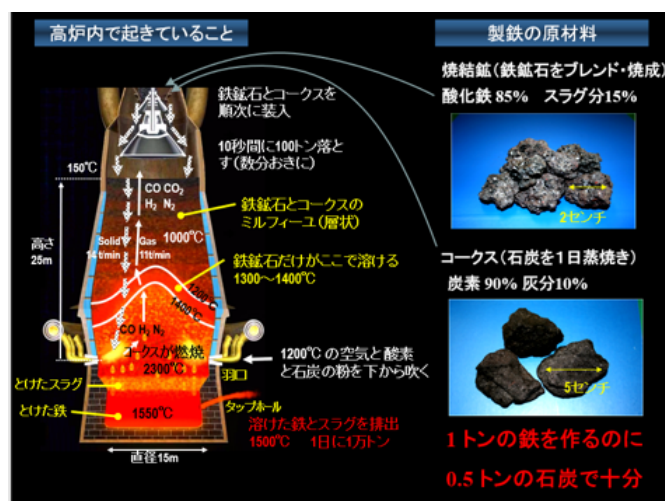
以上を踏まえて国家プロジェクト「[COURSE 50](#)」 [COURSE50 | 一般社団法人 日本鉄鋼連盟](#)

(革新的製鉄プロセス技術開発) が2008年から始動。この具体化の為に「試験高炉」を位置づけている。日本の鉄鋼業として省エネ努力により生産工程で世界最高水準のエネルギー効率を上げ、地球温暖化対策としてのCO₂削減・回収する技術を国家的に研究。今後を見守って欲しい。

※ スノーボールアース：地球全体が赤道付近も含め完全に氷床や海氷に覆われた状態



地球の元素存在割合



溶鉱炉内で起きていること

まとめ 「鉄」の歴史は宇宙の成り立ちの時から始まり、人類は「鉄」を道具として利用し始めて、食・住・生活の良き面と武具の面の「文明」を担ってきた。今後とも「平和」を探求し製造過程の「環境」を整えていくことに邁進されている砂原氏の地球規模の考え方に多くの教示を受けた一日でした。

(会員開発委員会担当 常任理事 小林敬幸)

明治学院大学 心理学部 教育発達学科の学生さんが来訪

日時：2021年7月2日 11:00～12:00

会場：港ユネスコ協会 事務局

明治学院大学 心理学部 教育発達学科の学生お二人が当協会を訪問されました。お二人は、当協会の日本語スピーチコンテストにおいて毎年ご支援下さっている同大学の渋谷恵先生のゼミ生です。大学の授業の一環として、以下のテーマについて取材することを目的に来訪されました。

1. 多様な背景を持つ地域住民が尊重し合いながら、日々の暮らしを豊かにしていくための生涯学習・市民活動の在り方について学ぶ。
2. 地域での生涯学習及びそこに関わる人の実情について知る。

永野会長から、戦後の日本における民間ユネスコ活動の始まりと意義、現在の日本において平和について考え行動することの大切さなどについてお話し頂きました。また、港ユネスコ協会の多様な活動内容について、学生お二人との間で意見交換を行いました。



ユネスコ憲章においては、前文にある有名な文言に続く「相互の風習と生活を知らないことは、人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信をおこした共通の原因であり、この疑惑と不信のために、諸人民の不一致があまりにもしばしば戦争となった」という文言が異文化理解の重要性を訴えています。港ユネスコ協会の活動はこの理念を踏まえた取り組みであるという説明をしたところ、二人の学生さんとの間でよいコミュニケーションができました。

訪問された学生お二人は今回の取材結果を、授業の報告会で説明されるそうです。

(事務局長 新福彰二)

事務局便り

【開催中の事業】

- ☆日本語講座 田川純子先生 7/3 スタート (土曜日・10:00~11:30) 10回
☆中級英語講座 中沢萬佐雄先生 7/6 スタート (火曜日・18:30~20:00) 10回
☆ビジネス英会話講座 金森尚人先生 7/5 スタート (月曜日・18:30~20:00) 9回

開催場所：いずれも港区立生涯学習センター3階 港ユネスコ協会事務局内

【今後の事業予定】

- ☆9月26日(日) 13:00~15:30 書道体験教室
会場：港区立生涯学習センター304号室
講師：金田翠夢氏(毎日書道展会員)
- ☆10月17日(日) 13:00~15:30 盆石教室
会場：港区立生涯学習センター305号室
講師：水野賀弥乃氏、窪田麻里氏
- ☆11月7日(日) 13:00~15:30 盆栽教室
会場：港区立生涯学習センター305号室
講師：川上桂樹氏(有限会社清香園)
- ☆11月19日(金) 18:30~20:30 2021年度港ユネスコ協会40周年・ユネスコ加盟70周年シンポ
「平和を考えるシリーズ」第3回「地域が育てる自然保護区：ユネスコ・エコパーク」
会場：港区六本木5-11-16 国際文化会館(オンライン同時配信)
総合コメンテーター：松田博之 横浜国立大学教授
パネリスト：磯田博子 筑波大学教授
酒井暁子 横浜国立大学教授
ママードウァ・アイーダ 金沢大学准教授
コーディネーター：永野博 港ユネスコ協会 会長
- ☆11月28日(日) 13:00~15:30 凧作りと凧揚げ体験教室
会場：港区立青山小学校
講師：福岡正巳氏(凧の博物館、日本の凧の会事務局長)

【ユネスコ関連事業の開催予定】

- ☆日時：9月23日(木・祝日) 20時~21時半 オンライン開催
UNESCO加盟70周年「2000人プロジェクト」第2回キックオフイベント
テーマ：「今、平和でないこと」を共に考える仲間とつながろう！
- ☆日時：10月2日(土)13時~15:30 オンライン開催 関東ブロック ユネスコ活動研究会 in 栃木
UNESCO加盟70周年記念事業「すべての人に平和を - 多文化共生とSDGsの推進 - 」

【ご寄付、ありがとうございました】

- ★田部副会長から5万円、また事務局の新福さん、大塚さんから各5千円の寄付を頂戴しました。
★当協会のウェブサイトが更新されましたので、ご覧になってください。

【編集後記】

・新型コロナウイルス感染症がかつてない感染爆発の様相となっているなか、お盆休みを迎え西日本を中心に災害級の大雨となっています。身を守るための最大級の警戒が呼び掛けられています。台風シーズンも控え、皆さまの大切な財産の備えは大丈夫でしょうか？暴風や豪雨、洪水などによる被害は火災保険の支払いの対象になります。ただし、民間の火災保険や共済など何に加入されているか、また加入の仕方などにより支払われる限度額や支払い対象が制限されていたりします。自身の身を守る行動を最優先に、事前の周知な準備に加え、加入されている保険の確認も必要です。(新福)

港ユネスコ協会事務局 火曜日~金曜日(祝祭日を除く) 午前10時~午後5時

〒105-0004 東京都港区新橋3-16-3 TEL03(3434)2300 TEL・FAX03(3434)2233

Eメール：info@minatounesco.jp ウェブサイト：<https://minato-unesco.jp>

